



2024年度版

# 医療費データから福岡を知る！

## 目次

福岡支部の医療費・加入者数の推移	2
福岡支部の1人当たり医療費の推移	3
支部別1人当たり医療費	4
支部別1人当たり医療費の全国平均からの乖離	5
診療にかかる諸率の状況	6
医療費の疾病別の内訳	7
疾病別1人当たり医療費の地域差指数	8
疾病別1人当たり医療費の全国平均との乖離	9
地域別1人当たり医療費	10
業態別1人当たり医療費	11
医療保険を未来につないでいくための取組	12

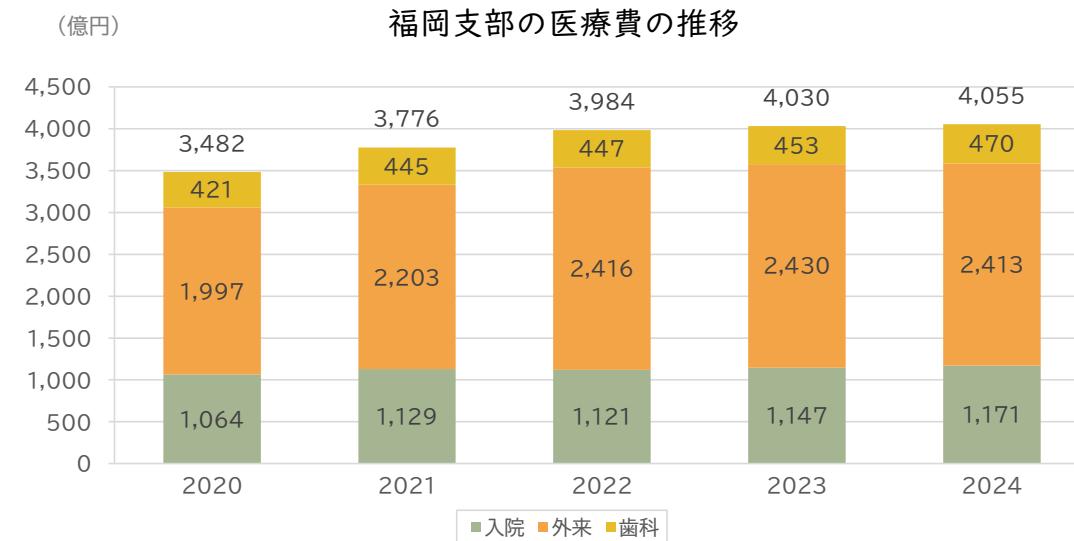


全国健康保険協会 福岡支部  
協会けんぽ

2026年1月作成

# 福岡支部の医療費・加入者数の推移

2024年度の福岡支部の医療費は、前年度から24億円増加し、約4,055億円となっています。また、加入者数は、前年度から2千人増加し、約188万人となっています。



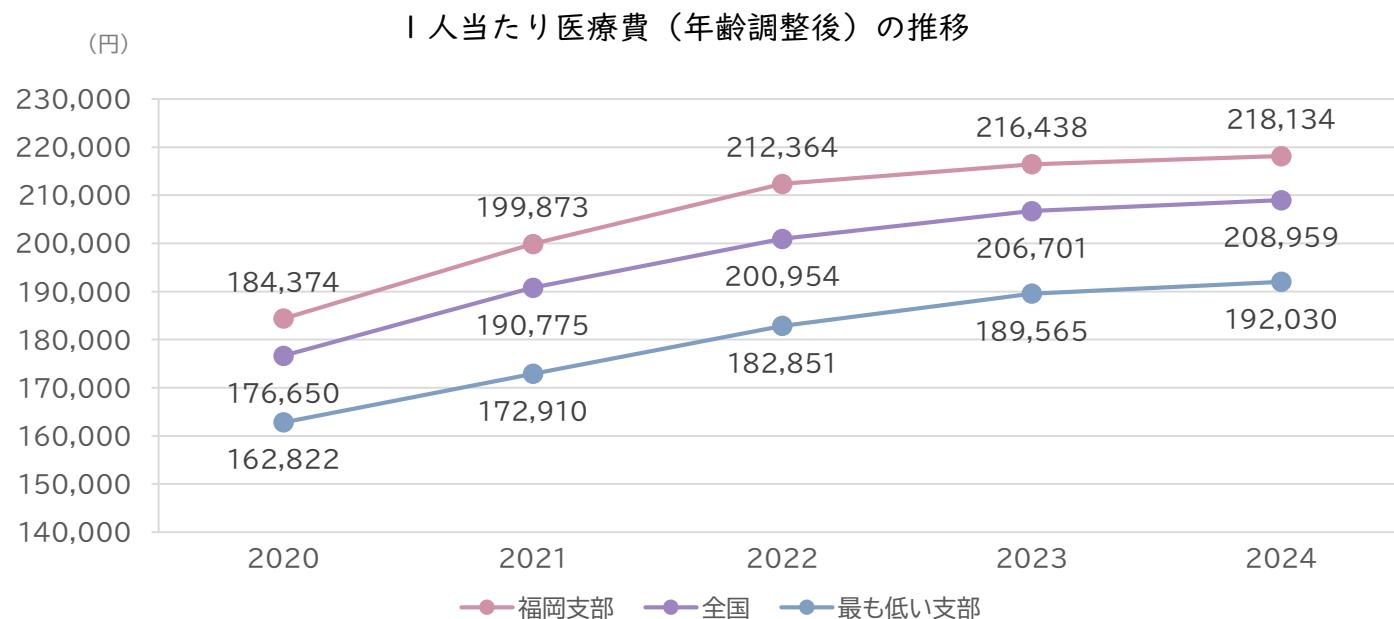
#### 用語の解説

##### 医療費

「療養の給付費」（診療費（入院、入院外、歯科）及び薬剤支給）と「一部負担金」の合計であり、医療に要した費用の総額を指します。本資料では、薬剤支給にかかる医療費を入院外及び歯科に含みます。

# 福岡支部の1人当たり医療費の推移

福岡支部の1人当たり医療費（年齢調整後）の推移を見ると、2024年度では福岡支部が218,134円で、全国平均の208,959円の約1.04倍、最も低い支部の192,030円の約1.14倍となっています。



## 用語の解説

### 1人当たり医療費

年度別の医療費を年度平均加入者数で除した数を指します。

### 年齢調整

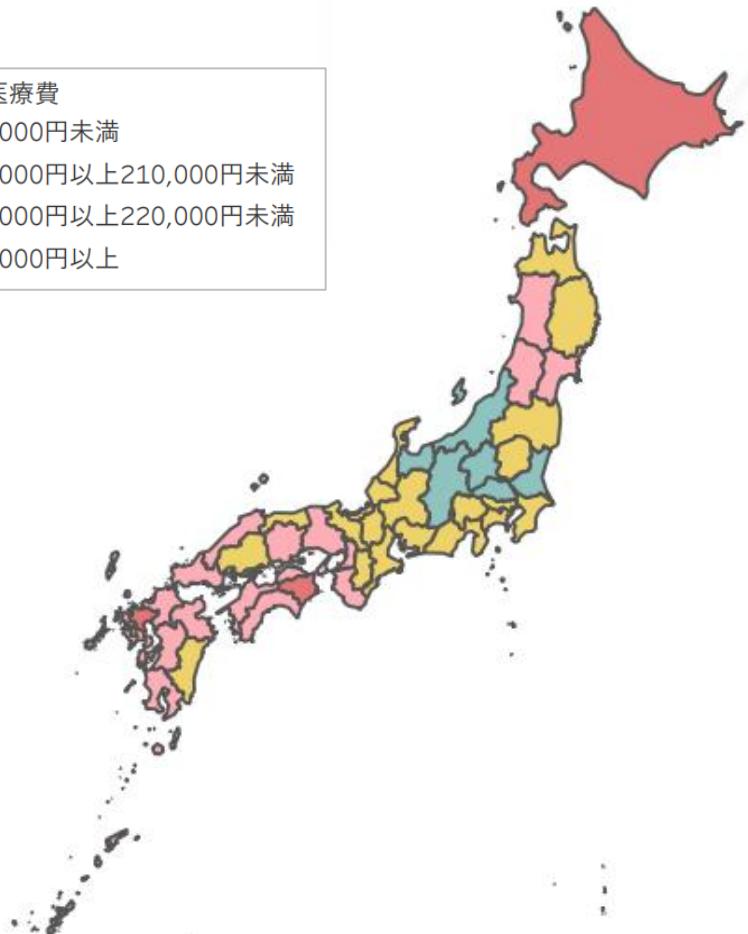
都道府県の年齢構成の違いによる医療費の格差を除くことです。

資料：協会けんぽ 加入者基本情報、医療費基本情報より集計

# 支部別 1人当たり医療費

2024年度の1人当たり医療費（年齢調整後）を支部ごとにみると、北海道、九州、中国地方が高く、関東地方が低いことがわかります。

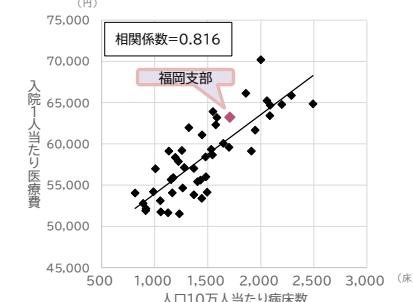
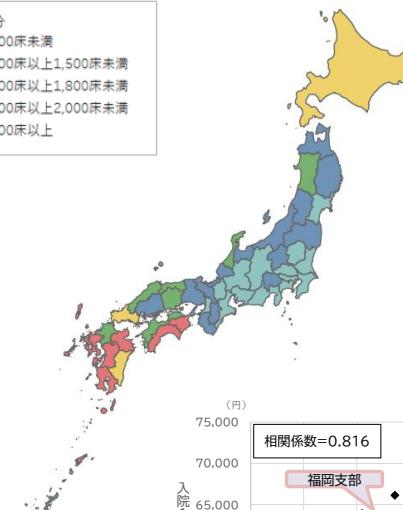
## 2024年度 支部別 1人当たり医療費



## 病床数と医療費の相関団

人口10万人当たり病床数をみると、九州地方は病床数が多く、関東地方は少なくなっています。また、病床数の多い地域は入院1人当たり医療費が高い傾向があります。

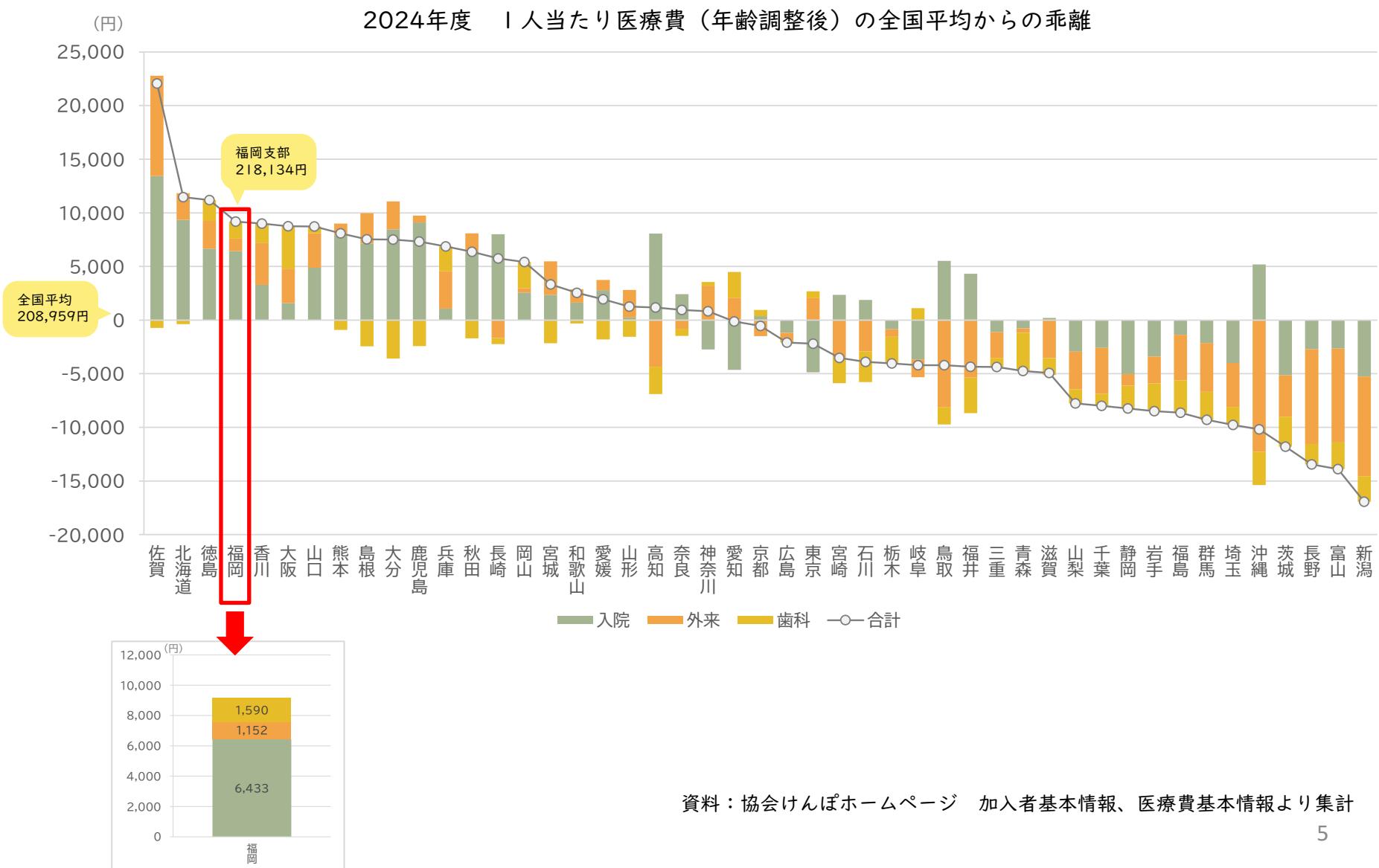
## 2023年 都道府県別人口10万人当たり病床数



資料：協会けんぽ 加入者基本情報、医療費基本情報より集計  
厚生労働省 令和5年医療施設調査

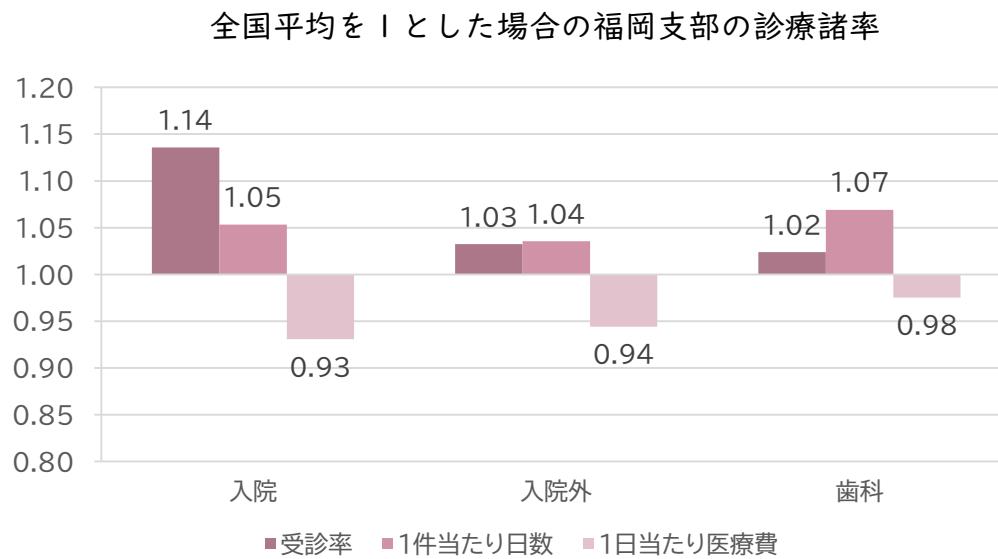
# 支部別 | 人当たり医療費の全国平均からの乖離

2024年度の福岡支部の一人当たり医療費（年齢調整後）は全国で4番目に高く、すべての診療種別で全国平均よりも高い状況となっています。特に、入院の一人当たり医療費は全国平均を6,433円上回っています。



# 診療にかかる諸率の状況

2024年度の福岡支部の診療諸率は、すべての診療種別において受診率と1件当たり日数が全国平均よりも高くなっています。特に、入院の受診率は全国平均の1.14倍となっています。



## 用語の解説

### ①受診率

レセプトの総枚数を年度平均加入者数で除したものをしていて、受診傾向の高低を示しています。

### ②1件当たり日数

レセプトの総診療実日数をレセプトの総枚数で除したものをしていて、入院期間や外来の受診頻度の長短を示しています。

### ③1日当たり医療費

総医療費をレセプトの総診療実日数で除したものをしていて、診療単価を示しています。

1人当たり医療費は上記の3つの要素に分解することができます、

$$1\text{人当たり医療費} = ① \times ② \times ③$$

となります。

		1人当たり医療費	受診率	1件当たり日数	1日当たり医療費
入院	福岡支部	63,214	0.11	9.64	60,852
	全国平均	56,781	0.09	9.15	65,383
入院外	福岡支部	129,689	7.03	1.40	13,193
	全国平均	128,537	6.81	1.35	13,974
歯科	福岡支部	25,230	1.90	1.60	8,321
	全国平均	23,641	1.85	1.50	8,534

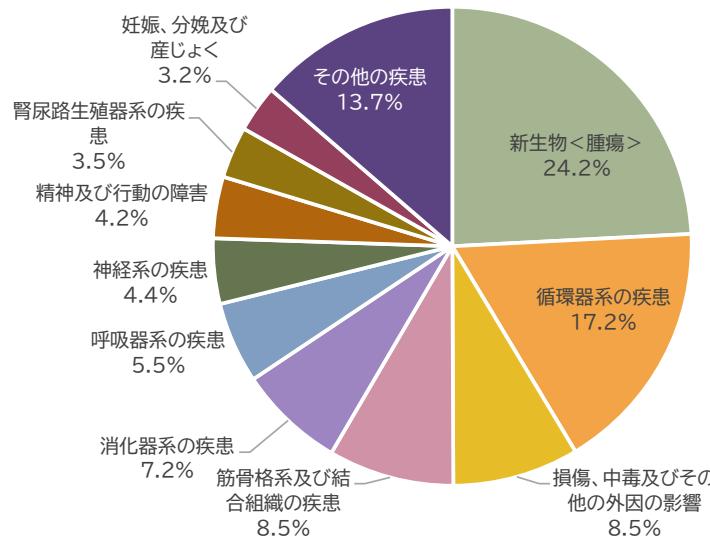
資料：協会けんぽホームページ 加入者基本情報、医療費基本情報より集計

※数値はすべて年齢調整後

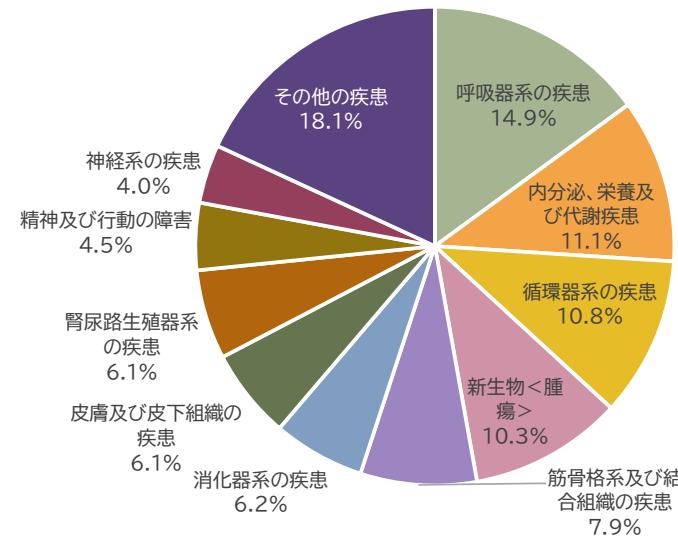
# 医療費の疾病別の内訳

2024年度の福岡支部の医療費を疾病別にみると、入院は「新生物」「循環器系の疾患」の割合が高く、入院外は「呼吸器系の疾患」「内分泌、栄養及び代謝疾患」の割合が高くなっています。

入院医療費の内訳（2024年度）



入院外医療費の内訳（2024年度）



※入院外の医療費には調剤分を含みます。

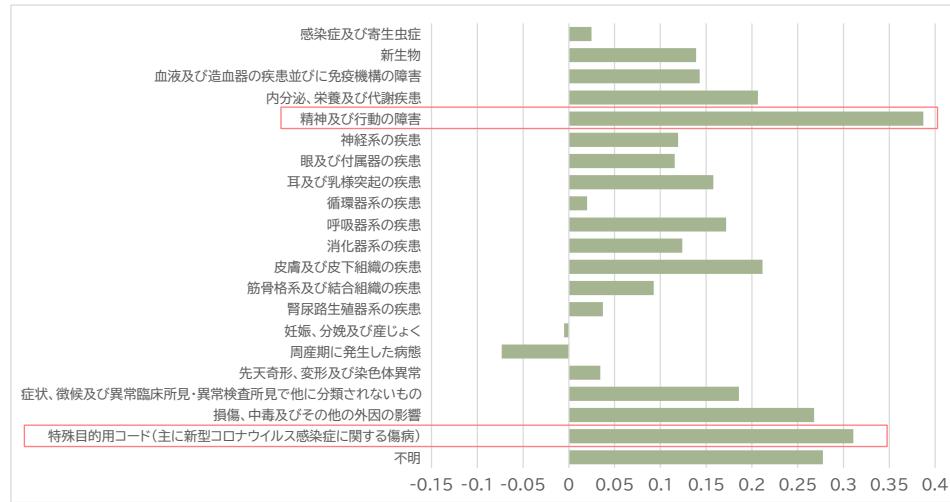
資料：協会けんぽホームページ 加入者基本情報、医療費基本情報より集計

※数値はすべて年齢調整後

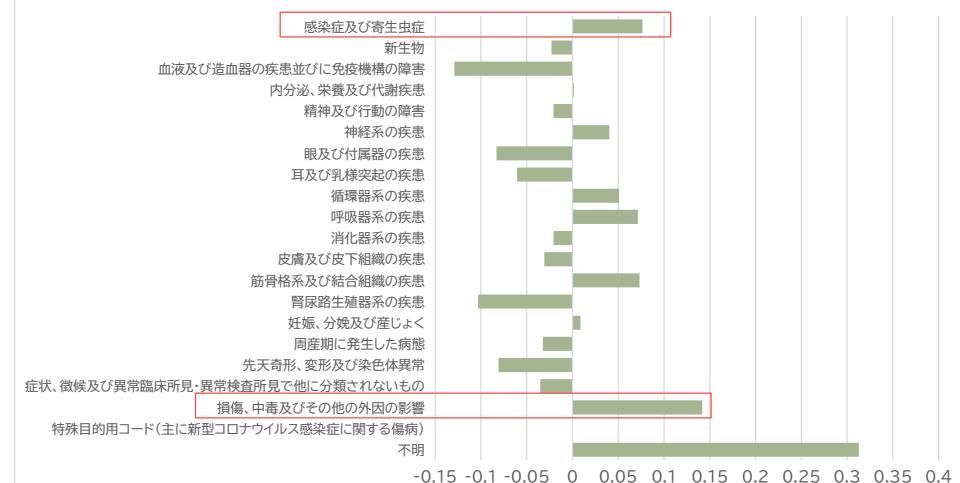
# 疾病別 | 人当たり医療費の地域差指数

福岡支部の「人当たり医療費の地域差指数を疾病別にみると、入院は「精神及び行動の障害」「特殊目的用コード（主に新型コロナウイルス感染症に関する傷病）」が高く、入院外は「損傷、中毒及びその他の外因の影響」「感染症及び寄生虫症」が高くなっています。

## 疾病別入院 | 人当たり医療費の地域差指数-1（2024年度）



## 疾病別入院外 | 人当たり医療費の地域差指数-1（2024年度）



資料：協会けんぽ 加入者基本情報、医療費基本情報より集計

## 用語の解説

### 地域差指数

「人当たり医療費を年齢調整し、全国平均を1として指数化したもので、医療費の地域差を表しています。  
ここでは、地域差指数から1（全国平均）を除いた数値を表示しています。

# 疾病別 | 人当たり医療費の全国平均との乖離

福岡支部の1人当たり医療費の全国平均との乖離を疾病別にみると、入院は「新生物」「損傷、中毒及びその他の外因の影響」が大きく、入院外は「呼吸器系の疾患」「筋骨格系及び結合組織の疾患」が大きくなっています。

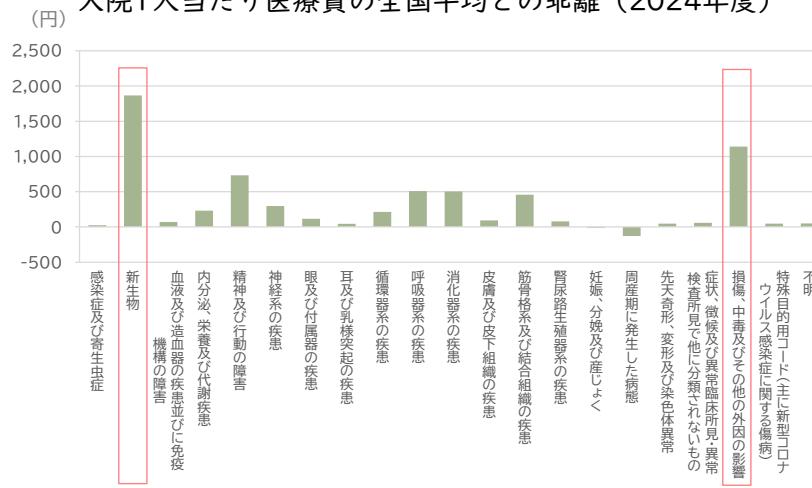
入院 | 人当たり医療費（2024年度）

順位	疾病分類名	福岡支部	全国平均	乖離
1	新生物＜腫瘍＞	15,285	13,421	1,865
2	損傷、中毒及びその他の外因の影響	5,394	4,255	1,140
3	精神及び行動の障害	2,627	1,894	733
4	呼吸器系の疾患	3,473	2,964	509
5	消化器系の疾患	4,550	4,048	502

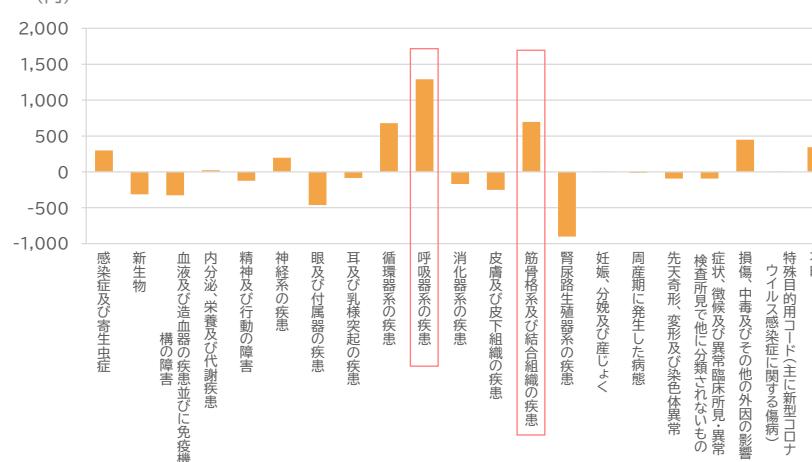
入院外 | 人当たり医療費（2024年度）

順位	疾病大分類名	福岡支部	全国平均	乖離
1	呼吸器系の疾患	19,383	18,092	1,291
2	筋骨格系及び結合組織の疾患	10,186	9,491	695
3	循環器系の疾患	14,020	13,340	680
4	損傷、中毒及びその他の外因の影響	3,609	3,161	448
5	感染症及び寄生虫症	4,214	3,915	299

入院 | 人当たり医療費の全国平均との乖離（2024年度）



入院外 | 人当たり医療費の全国平均との乖離（2024年度）



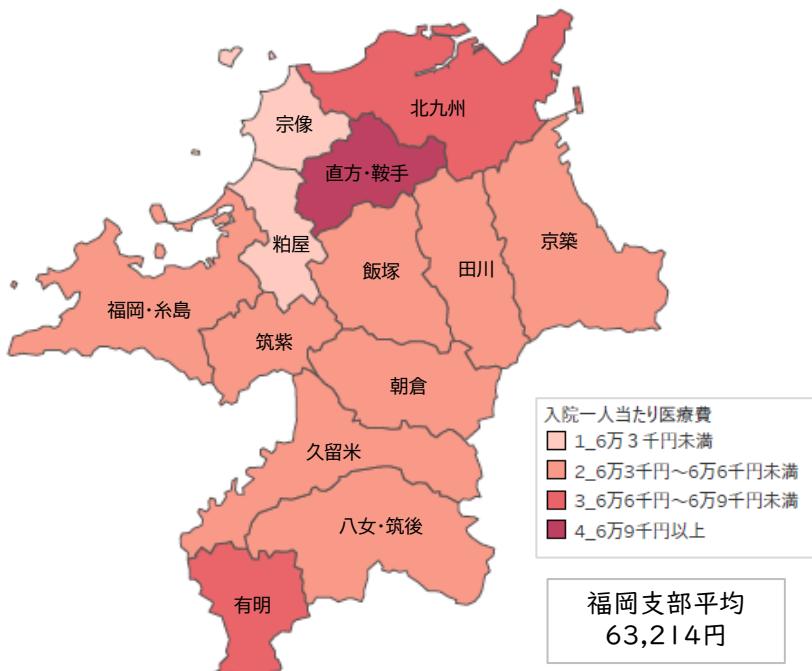
資料：協会けんぽ 加入者基本情報、医療費基本情報より集計

※数値はすべて年齢調整後

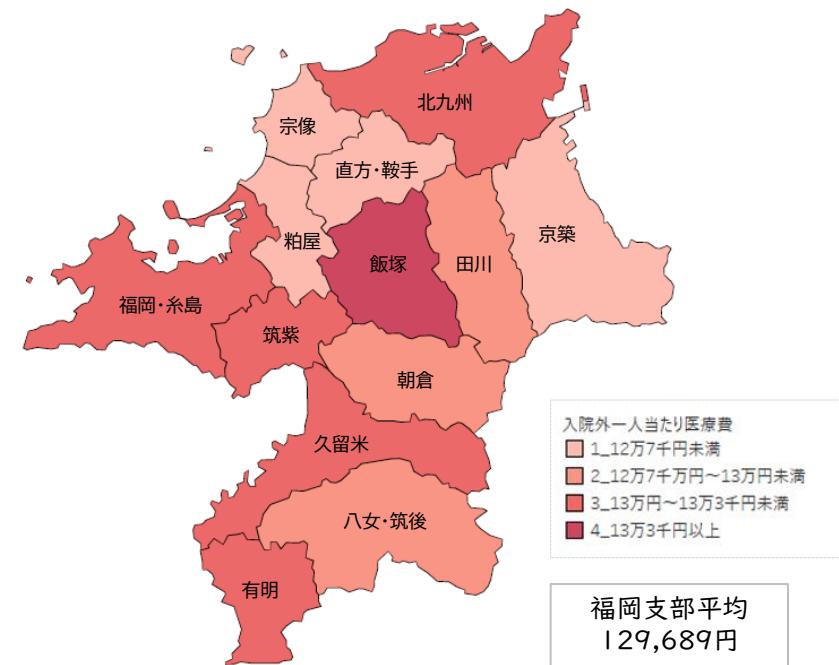
# 地域別 | 人当たり医療費

福岡支部の1人当たり医療費を地域別にみると、入院は「直方・鞍手」「北九州」「有明」地区が高く、入院外は「飯塚」「久留米」「有明」「福岡・糸島」「筑紫」地区が高い状況にあります。

入院 | 人当たり医療費 (2024年度)



入院外 | 人当たり医療費 (2024年度)



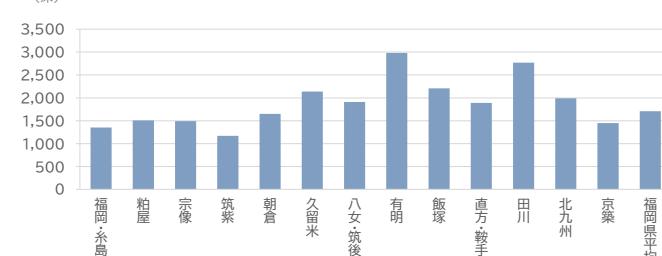
資料：協会けんぽ 統計システムより集計  
※数値はすべて年齢調整後

二次医療圏別病床数図

人口10万人当たり病床数を地域別にみると、「有明」「田川」が多くなっており、「筑紫」「福岡・糸島」が少ない。

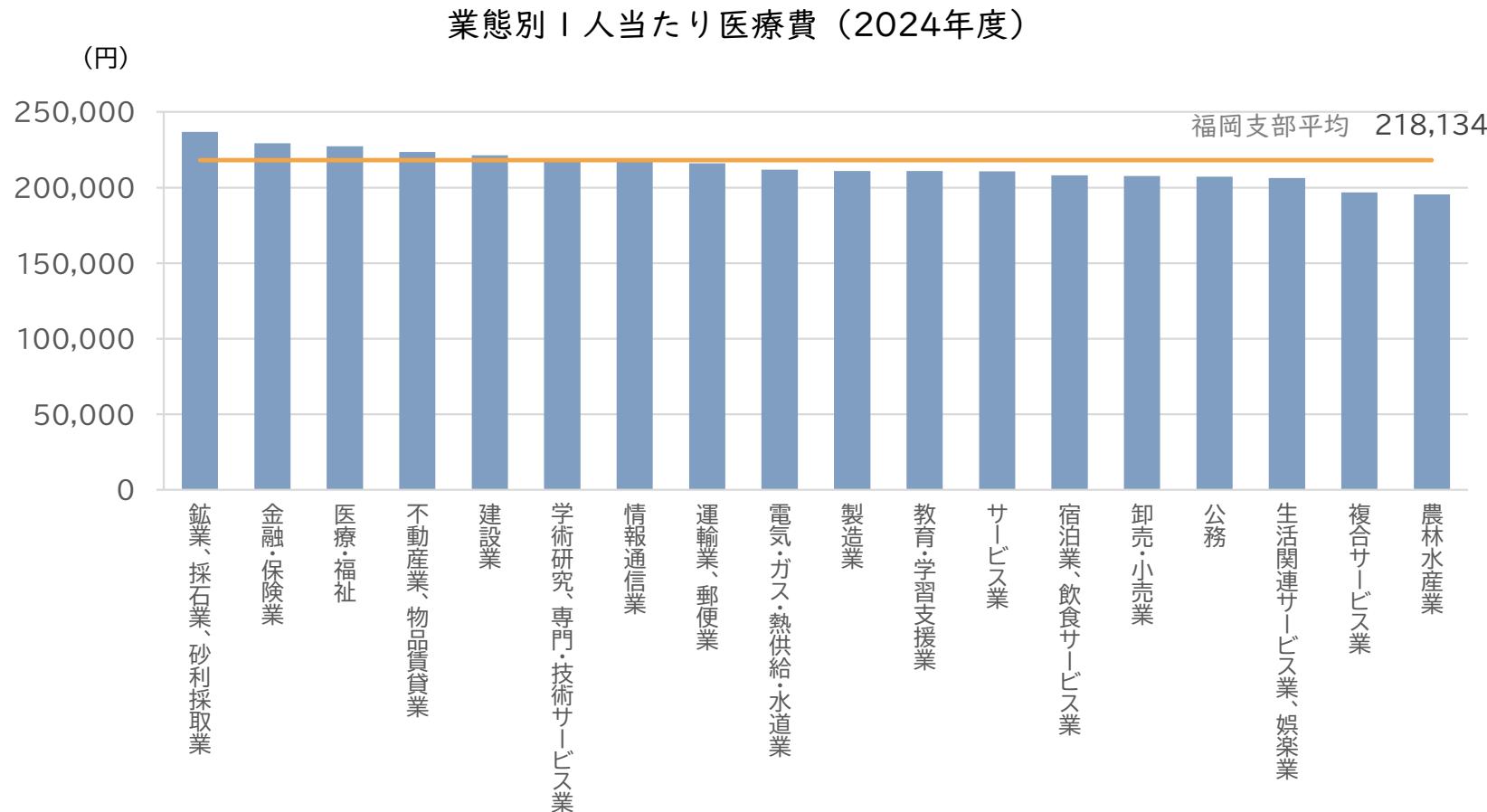
資料：福岡県 国保医療費及び後期高齢者医療費の現状（令和7年3月）

二次医療圏別人口10万人当たり病床数



## 業態別 1人当たり医療費

福岡支部の1人当たり医療費を業態別にみると、「鉱業、採石業、砂利採取業」「金融・保険業」が高く、「農林水産業」「複合サービス業」が低い状況にあります。



資料：協会けんぽ 統計システムより集計  
※数値はすべて年齢調整後

# 医療保険を未来につないでいくための取組①

医療機関等を受診する際に、医療のかかり方を見直すことで、医療費の適正化につながります。

## ジェネリック医薬品を選びましょう

医療機関等から処方されるお薬は、先発医薬品とジェネリック医薬品に分けられます。協会けんぽでは、加入者の皆さまの自己負担の軽減や医療保険財政に効果をもたらすことから、ジェネリック医薬品の使用を促進しています。

協会けんぽのジェネリック医薬品の使用割合は年々上昇しております、福岡支部では9割使用されています。

## 用語の解説

### ジェネリック医薬品

先発医薬品と同等の有効成分・効能があると厚生労働省から認められている安価なお薬です。

#### 先発医薬品と同等の効果

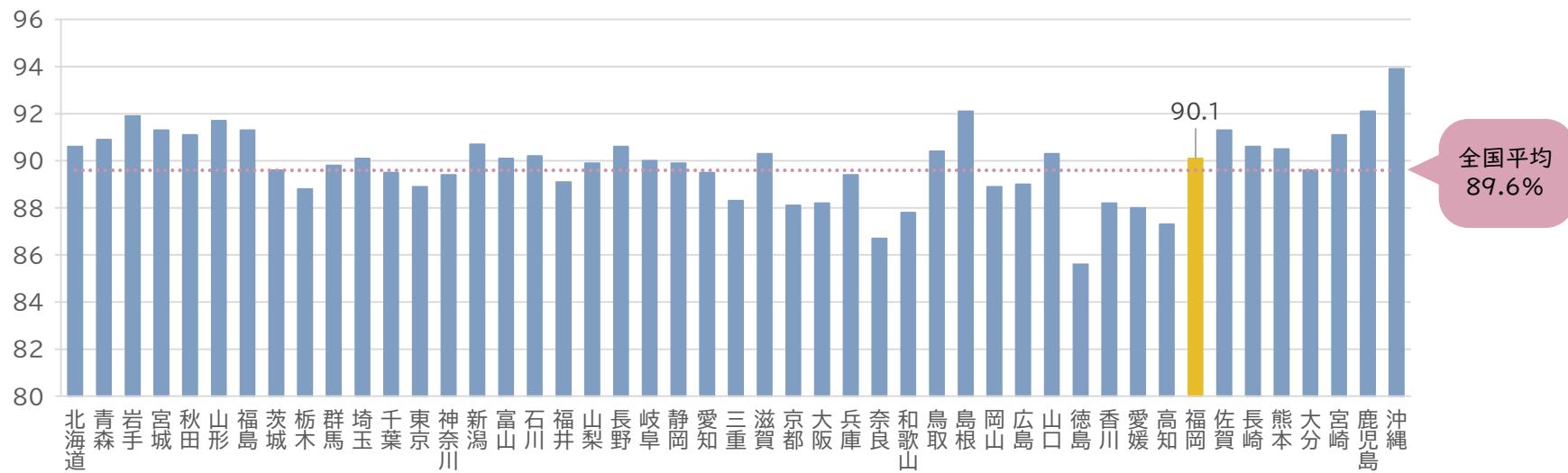
先発医薬品と同じ有効成分を同量含んでおり、効果や安全性が同等と国から認められています。

#### 先発医薬品と比べ自己負担が軽い

先発医薬品の特許期間が過ぎた後に同じ有効成分を利用することから、開発コストが抑えられるためお薬代が安価になります。

(%)

### ジェネリック医薬品使用割合 (2025年7月)



資料：協会けんぽ 統計システムより集計

# 医療保険を未来につないでいくための取組②

医療機関等を受診する際に、医療のかかり方を見直すことで、医療費の適正化につながります。

## 緊急時以外は診療時間内に受診しましょう

本来、休日や夜間は緊急性の高い重症患者や入院患者に対応する時間帯です。この時間帯の自己都合による安い受診は、自己負担の増加だけでなく、医療スタッフの負担になるとともに本当に治療が必要な方の治療の機会を奪うことになりかねません。やむを得ない場合以外は、診療時間内に受診するようしましょう。

		(3割負担の場合)		
		医療機関	薬局	
		初診料	再診料	-
休日 加算	日・祝	+750円	+570円	調剤技術料の 1.4倍を加算
時間外 加算	おおむね8時前と 18時以降、土曜日は 8時前と12時以降	+260円 (+690円) ※	+200円 (+540円) ※	調剤技術料と 同額を加算
深夜 加算	22時～翌6時	+1,440円	+1,260円	調剤技術料の 2倍を加算

※( )内は救急病院などの場合の額です

